

① ヒモヅル 昭和四年熊本のトップを切った天然記念物に指定された。ヒモヅルはヒカゲノカヅラ科の常緑シダ植物で、念珠岳の麓に生ずる。岳浦は自生して、島根県に生ずる。昭和六年、日本で最初の発見。校諭富田貞氏、谷山治氏が見出し、これが日本で最初の発見。と成りました。昭和六年発行より



② 名桐遺跡

なまきりいせき

名桐地区から石匙せきひ（石のナイフ）・石鏃せきぞく（矢じり）・黒曜石チップ・打製石斧・磨製石斧等出土してあり、所在は地区内に点在しています。農地の区画整理時に弥生土器の一部出土し、最も古く、県の遺跡地図に七曲遺跡（遺跡散布地）として登録されています。七曲は名桐川の上流に位置しますが、流域は干拓がなされて、いかにたい当時は棚底湾の最奥部になり、船着場があり、最も古い集落地であるとの言い伝えもあります。



③ 名桐石棺墓群

なまきりせつかんぼぐん

箱式石棺は基弥生後期から古墳時代にかけてのものと思われています。旧銀主和泉屋（小谷家）と旧家萩尾家（蓮田家）の間を小さな尾根が延びています。干拓が行われる前は、海へ延びる小さな岬であったと思われています。県の遺跡地図に名桐古墳群（石棺墓）として登録されています。



④ 浦城跡 うらしろあて

の山稜末端の奥に流れ込む名桐川の中流に「城下」という字があり、標高一三四mの山が十分で長径二〇mの楕円形で、北西側斜面には削平が二段の腰曲輪が付いています。背後には北側斜面に縦堀状の堀切二条が城域を限っているように浦や棚底の実効支配をするうえで必要な交通の要衝であったと考えられています。

※ 鶴嶋俊彦氏「戦国相良氏の天草外交と城郭」より

⑤ 藤河の拵 ふじかわ かこい

藤河拵破候「弘治二年（一五五六年）六月一日上津浦より棚底之内、い伝も残。藤川には、かつかつていす。倉岳町誌では浦の藤川あたりとされ、石仏があり、いま藤川地区には「武士弥三郎の墓」と呼ばれています。

藤河の拵↓家久栄では元（一七六四年）の年号が刻まれています。



⑥ 大迫観音 おおせかいがんのん

明治初期頃に山が明るかつたので行ってみると光っている石があったため、持ち帰り現在の場所に祀っています。故新地秀春氏宅で祀られ、新地観音また名桐観音とも言われていました。平成二〇年から大迫地区で祀る事となり、大迫観音と改名されました。二体祀っており、向かって右が大迫観音、向かって左が子安観音です。昭和一九年に木造で社を造り、昭和三十九年に現在の鉄骨造りの社となっていました。大迫地区では、年一回一月に祭事を行っています。



⑦ 三四郎権現さんしろうごんげん（正一位しょういちい稻荷大明神いなりのみょうじん）
白狐伝説が残っています。洞穴が姫戸までつながっているとも言わ
れています。

※九ページ参照

⑧ 名桐天満宮なぎりてんまんぐう

学問の神様である、菅原道真公を名桐地区で祀っています。建立は不明ですが、
天保一一年（一八四〇年）の年号の入った旗があります。

⑨ 龍宮神社と曲迫観音りゅうみやうじんじゃ まがりせきかんのん

左側の龍宮神社には、名切連中との記載があり、明治二三年二月の銘がありま
す。地区では年一回祭事を行っています。



⑬ 大王宮 だいおうぐう

那江浦の氏神として祀られていました。別の呼び名で、伊邪
大岐神社（由来・浦村の氏神として祀られていました。別の呼び名で、伊邪
大王宮の旧鳥居の銘文「安永六年（一七七七年）酉九月九日建立」



⑭ 忠霊塔 ちゆうれいとう

昭和一六年建立されています。戦争のため、亡くなった人びとの霊を祀ってあ
る塔です。



⑮ 小松克三翁碑 こまつくさくさんひ

明治後期から大正にかけて浦村の村長として、浦村の発展に多大に貢献された
ことが記されています。昭和五年建立、村長は小谷弥寿人氏、当時の三役や議員
さん区長さんが発起人とされています。



⑯ 光蓮寺こうれんじ以前は、蓮池庵れんちあん。棚底の海雲山江岸寺の末庵、浄土宗蓮池庵として一六九八年に創建された庵です。昭和に入ります。浄土宗光蓮寺となりました。天草八十八ヶ所霊場の二八番札所



⑰ 正受庵しょうじゅあん。上天草市龍ヶ岳町樋ノ島の安向山観乗寺の末庵、浄土真宗正受庵として一八七五年に創建され、現在、境内には昭和四七年大水害の慰霊碑があります。建物は明治三年に建立され、境内には昭和四七



⑱ 東漸庵とうぜんあん。上天草市松島町教良木の金剛山霊光寺（現在は姫戸町）の末庵、浄土真宗東漸庵として一八九九年に創建されました。



②② 目の神様 めのかみさま
小浦地区に病気が回復・安全祈願のため建立されました。若宮さんと呼ばれ、目の神様として住民がお参りしています。



②③ 阿蘇宮 あそぐう
創建は不明ですが、文化四年（一一八〇七年）と刻まれた灯籠があります。天草では五社ほど、数少ない神社の一つとされています。阿蘇神社の分社であると言われています。



②④ 馬頭観音 ばとうかんのん
松尾地区、引地地区に祀られていました。松尾地区は昭和四年に建立されています。側が現在も一年一回先祖からの祭事を行っています。





②5 浦新田 うらしんでん

寛永後期（一六四〇年代）から順次建設し、明和二年（一七六五年）来島した「江戸役人支配勘定岸本弥三郎御廻村の砌御見立新田」として新地開きの勧告を受け、御領村石本家、宮田村原田家、浦村松尾某が共同出資して工事が進められました。文化元年（一八〇四年）浦村庄屋小松家が橋本屋などと話し合い、佐伊津岡村家出資を得て、引地に塘堤を築き完成しました。浦村の石高は、万治二年（一六五九年）一四四石一斗四升でしたが、新しく海面干潟締切が完成していた文政一〇年（一八二七年）には二六六石二斗九升に倍増しました。そのうち新地田畑の分が一三一石一斗二升、総生産高の四割五分五厘を占めています。

（写真…上側が引地地区から見た新田中央が浦5区分館敷地内の樋門

下側が昭和三九年の区画整理記念碑）

②6 住吉宮・金毘羅宮

いずれも創建は不明ですが、金毘羅宮には昭和一八年（一九四三年）と刻まれた鳥居があります。住吉宮は新田の守り神、金毘羅宮は海にまつわる神様と言われています。（写真…上側が住吉宮、下側が金毘羅宮）



②7 中浦天満宮

創建は、慶応元年（一八六五年）くらいではないかと言われています。年一回、中浦地区の安寧を願い集落を上げてお奉りをしています。



②8 夫婦岩・船線刻画

引地地区と中浦地区（門前口）から倉岳への登山道入口として使われていた所にある岩が夫婦岩と呼ばれています。その片方の岩に刻まれているのが船線刻画です。（写真…上側が夫婦岩、下側が船線刻画）



②⑨ 浦川 うらかわ

倉岳が水源の二級河川。荒平棚田から浦新田までの水田用水として重要な河川です。また、浦川堤防線はフラワ―



③⑩ 倉岳神社・倉岳大明神 くらたけじんじや くらたけだいみょうじん

天草最高峰倉岳（六八二m）の山頂に浦地区を向いた二基の祠があります。文化二年（一八〇五年）庄屋小松彦右衛門と大正四年（一九一五年）村長小松克三に建立されたものです。古代から山岳信仰の霊山だったとされ、石舟が数隻奉納されています。昭和三年までは三月一日に祭事を行います。熊本県の遺跡地図には祭祀遺跡として登録されています。熊本の遺跡地図には祭祀遺跡として登録されています。（写真…上側が文化二年に建立、下側が大正四年に建立）



③⑪ 投石 不動尊（身変不動明王） なげいし ふどうそん

昭和五年頃、福岡より天草に帰り、得度を受け住職の試験を経て、名を小松重任から啓真に改め天龍寺を起しました。昭和七年に亡くなりました。日蓮上人、弘法大師像が残っています。現在は、お堂と、不動明



湯屋ゆや

現在の、立石剛八氏宅を奥に入っていた所で湯が湧き出ていたと言われている。

お講こうさま

大迫地区で長年続いている仏教集会。

どうじんぶち・きじん口

岩下地区から教良木地区に至る峠越道。

小松田こまつだと六郎川ろくろうがわ

小松田は浦庄屋住居跡地一帯を言い、六郎川は小松克三村長の住居跡地を言います。

亀かめの底そこ

新田干拓がされていなかった頃、名桐橋付近は大変深かったためこのように呼ばれていました。

西にしの迫せきの湧水わきみず・中なかの迫せきの湧水わきみず

中浦地区に、切り傷に良く効く湧水があったとの言い伝えがあります。

埴安はにやすひら姫ひめの命

藤川地区にあり、以前は荒神様を祀っていました。平成六年四月の銘があります。